

# 流行性肝炎の予防に関する研究

## 第一報

### 一般予防法とその効果に関する考察

岡山大学医学部第一内科教室（主任 山岡教授）

助教授 小坂 淳 夫

助手 岩原 正 雄

岡山県衛生部公衆衛生課

課長 岩崎 辻 男

石田 立 夫

〔昭和36年3月9日受付〕

#### 緒 言

流行性肝炎の伝染経路は“fecal-oral route”をとすることは、既に我々<sup>1)</sup>も報告した通りであるが、その病原体は抵抗性が強く、56°C 30分の加熱は勿論-60°Cでも耐え得るし、各種消毒薬も殆んど無効で、塩素による水の消毒も不可能であると謂われている<sup>2)</sup>。それかあらぬか、その流行<sup>1)</sup>は或は爆発的に、或は散発的に遷延し、容易に終息することが困難である。

我々は岡山県赤磐郡熊山町の流行に際し、当時血清γ-globulin等の入手が困難であつたため、電撃性肝炎の多発した2部落を選び、特に集団検診を行なつて患者の摘発を行なうと共に、衛生知識の普及と、腸管係伝染病の予防法に準じた予防処置を実施した処、他の地域に比しみるべき効果を得たので報告する。

#### 実 施 方 法

電撃性肝炎の多発した岡山県赤磐郡熊山町石蓮寺、稗田陪落を対象とし昭和28年に入り集団検診を行なつて発生肝著以外潜在性肝炎例、要注意例、不顕性感染例を摘発し、潜在性肝炎例は患者と共に地方医の監督の下に、Methionin B<sub>12</sub>（武田）錠1日9錠宛投与、食餌、安静療法を指導すると共に、要注意例にはその旨伝えて激務を避け、食餌の改善に努めさせた。一般部落民には衛生講話による予防知識の普及に努め、腸管系伝染病に準じ、井戸水、汚水、

便所の消毒を徹底させた。特に地区部落長の本予防処置における率先した指導は、関係者一同は勿論部落民に感激を与えた。

集団検診は3ヶ月毎、石蓮寺部落では4回、稗田部落では3回行なつた。その要領は我々<sup>3)</sup>の方法として既に発表した。なお対照には、これらの部落と隣接し、生活条件、住民数等略同一の熊山町内部落、可真下、可真上、岡、殿谷、佐古を選んだ。これらの地域も亦同様の流行はみられているが、部落民の無関心のため上記の予防処置を十分取り行なうことが出来なかつた。

#### 成績並びに考察

石蓮寺、稗田部落の第一回集団検診成績に就いては、別に報告<sup>4)</sup>したので省略する。爾後の集団検診成績は第1表の通りで、逐次軽快を示し、両部落とも慢性型に移行した若干を残し略々軽快した。唯不顕性感染例と考えられたものからの発病例（悪化の項に入れたもの）は石蓮寺部落では1年後跡を絶たなかつたが、稗田部落では絶滅した。なお集団検診の開始以来、両部落には電撃性肝炎は勿論、死亡例も認めていない。

昭和29年以後の両部落及び対照部落の患者発生状態は第2表の通りで、石蓮寺部落では4月に1名、稗田部落では6月、7月に各1名の患者の発生をみたが、後著の2例はいずれも再発例で、以後両部落とも患者の発生をみないのに対し、他の対照部落は昭和28年に引き続き多発を繰り返しており、明らか

第1表 集団検診成績

程度	部落名	石 蓮 寺			稗 田	
		第2回	第3回	第4回	第2回	第3回
要 加 療 者	軽快	60%	50%	63.5%	50%	86.9%
	不変	40	50	36.5	50	13.1
	悪化	0	0	0	0	0
要 注 意 者	軽快	0	0	100%	85%	100%
	不変	75%	75%	0	0	0
	悪化	25	25	0	15	0
不 顕 性 感 染 例	悪化	2%	18%	2%	11.6%	0

備考 各は前回の成績に対するものである。

表 2 表 患 者 発 生 状 態

年月	昭和 26	27	昭 和 28 年												昭 和 29 年											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
部落名																										
石 蓮 寺	0	4	2			2		2	1	2		1	1				1									
稗 田	0	10	2	3				1	2			1							1	1						
可 真 下	0	4	1	3				1	2	1	1	9	5	1			1	1		2	3	6	4	2	2	3
可 真 上	2	6	2								1	2	1					1	5	4	4	4	5	3		
岡	0	4	2					1	1	0	2	2	1		1				2	4	1	2	1	2	2	
殿 谷	1	6	1				1	2			6	1							5	2	2	4			1	
佐 古	0	2	1		1		2	1	1		1	1						1	2	1	5	2	3	1	1	

備考 ( ) は再発例を示す。

でも、根気強く我々の行なつた方法を実施すれば、短時日の流行の終息は期待しえないにしても、十分予防の効果は期待出来るものと断定してよいのではなからうか。

なおわれわれの方法で最も残念であつたことは、特異な血液像、指爪根部を細血管像を有し、肝障害なく、他の疾患と鑑別した例を、一応疾患の不顕性感染例として取扱ひ、一般 virus 性疾患の不顕性感染例の概念に倣ひ監視外においたため、それらの例より発病者の続発したことで、今後の本疾患の疫学上参考とすべき点と思われる。

結 論

流行性肝炎の多発した岡山県赤磐郡熊山町の二部

主 要 文 献

1) 小坂：日本伝染病学会誌 28 巻，6~7 号，345 (昭29).

な差異がみられている。

これらの差異は我々の実施した処置の効果と考えなければならぬ。即ち潜在性肝炎を含めた患者の発見と、徹底した治療の指導、要注意者の補導、衛生指導を含めた環境の清浄化と保健の指導等が有効であつたと考えられるが、その中いずれが特に重要な役割を演じたかは決定し難い。腸管系伝染病に準じた消毒法は、本 virus の性質から煮沸、焼却の処置、生食物の禁止等の項では有効であつたろうが、他の処置では有効とは考え難く、寧ろ環境の清浄化及び衛生観念の昂揚という間接的な効果しか期待は出来まい。

そうであれば流行性肝炎の予防には積極的な方法、例えば予防接種に依る方法<sup>2)</sup>等がとりえない場合

落を選び、集団検診に依る潜在性肝炎例を含めた患者の摘発と、その徹底した治療の指導、要注意者の補導、衛生指導を含めた環境の清浄化と保健指導等一般腸管係伝染病予病処置に準じた方法を熱心を実施した結果、1ヶ年後殆んど流行の終息をみ、対照として同一処置をとらなかつた他部落に比し顕著な成績を納めた。このことは本疾患の予防上一つの好資料を提供したものである。

(本研究には岡山県衛生部の多大の御好意を頂いた。記して謝意を表する。)

2) Havens, W. P. : Medicine 27, 279 (1948).  
3) 小坂他：岡山医学会誌 66 巻，12 号，2363 (昭

- 29).  
 4) 小坂他：岡山医学会誌 66 卷, 12 号, 2371 (昭  
 29).  
 5) Stokes, J. & Neefe, J. R. : J. A. M. A. 127,  
 144 (1945).  
 6) Havens, W. P. & Paul, J. R. : J. A. M. A. 129,  
 270 (1945).  
 7) 小坂他：日本内科学会誌 42 卷, 9 号, 693 (昭  
 28).

---

## Studies on the Prophylaxis for Infectious Hepatitis

### 1st. Report. a Consideration Refer to Prophylaxis in General and Its Effect

By

Kiyowo KOSAKA  
 and  
 Masao IWAHARA

1st Internal Med Dept., Okayama University Medical School.  
 (Director: Professor K. Yamaoka)

By

Tsujo IWASAKI  
 and  
 Tatsuo ISHIDA

Public Health Dept., Sanitary Bureau Okayama Prefecture.

Patients, including latent infections, were detected by excuting mass examination for two hamlets of Kumayama-cho, a small town prevailing infectious hepatitis, Akaiwa-gun, Okayama Prefecture. Complete medical treatments of these patients were instructed, and also the cases must be taken care of were adequately leaded. Special efforts were taken to improve sanitary and hygienic practices in the community likewise other intestinal infections.

In comparison with other hamlets which did not take adequate treatment, epidemic of infectious hepatitis has been almost protected and remarkable results were obtained after one year. These facts might offer interesting materials to prophylaxis for infectious hepatitis.

---